

認知症でも安心して外出できるまちづくり



大牟田市保健福祉部 福祉課総合相談担当



大牟田市公式キャラクター「ジャーフ」
(presented by 株式会社レベルファイブ)
市制施行100周年を記念し、平成29年3月1
日に大牟田市公式キャラクター「ジャーフ」が誕
生しました。

福岡県大牟田市の概況



宮原坑(世界文化遺産)

かつては炭鉱のまち
(平成9年三池炭鉱閉山)
今、大牟田は
人にやさしいまちへ

●大牟田市の人口
約210,000人
(1960年)

⇒

110,590 人
(2021年10月)

●高齢者数
高齢化率

41,242人
(37.3%)

●世帯数
高齢者のいる世帯

56,059戸
30,407戸
(54.2%)

高齢者単身世帯

14,929戸
(26.6%)

●面 積

81.45 k m²

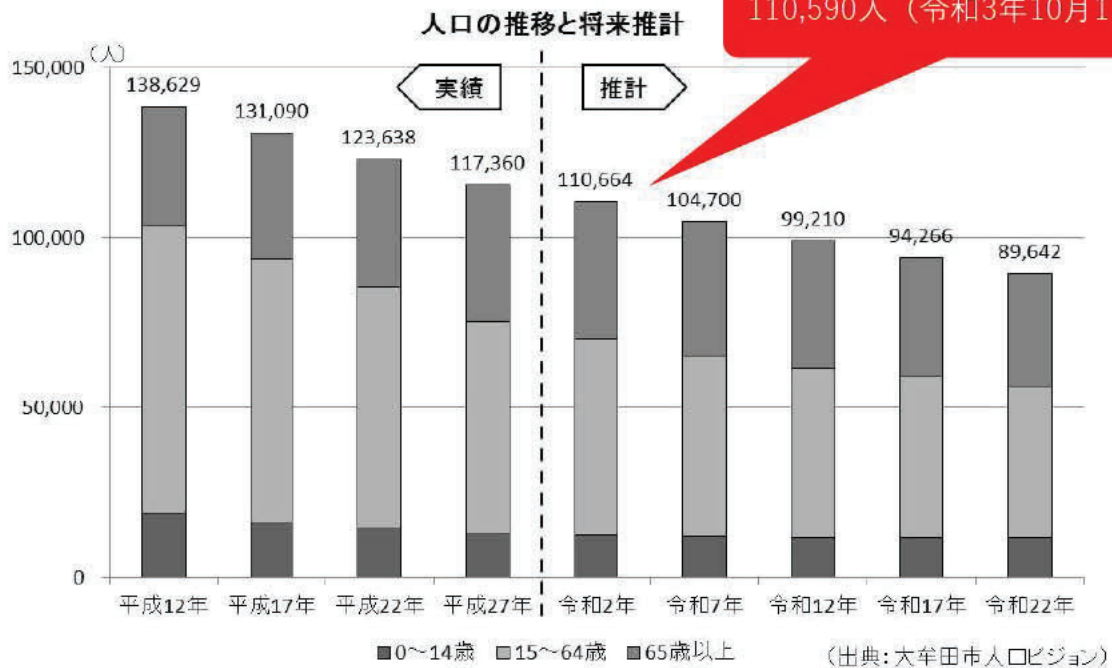
●公立小学校区数

19小学校区

●公立中学校区数

8中学校区

■人口減少・少子高齢化



高齢化の進展（特に後期高齢者の増加）に伴い、地域包括支援センターの相談件数や対応件数が増加し、負担感も増加

官民協働の取組み

大牟田の高齢者福祉は、ここから始まった

大牟田市介護サービス事業者協議会
(2000年3月設立)

(目的)

第2条 介護サービス事業者の資質の向上及び事業者間のネットワーク化を図ることにより、円滑な介護サービスの提供を推進するとともに、介護を必要とする人の日常生活への復帰に努力し、本人の意思と能力を発揮しうるような人生を最後まで支え続ける介護環境の確立を目的とする。(大牟田市介護サービス事業者協議会規約)

【自立支援】⇒【自己決定】⇒【自己実現】

会員数:70法人(211事業所) R3.3月現在
事務局:大牟田市 福祉課

これこそが「協働」のまちづくりの原動力

4

大牟田市地域認知症ケアコミュニティ推進事業
(since2001～)

認知症の人とともに暮らす町づくりの原点は・・・

平成13年11月～大牟田市認知症ケア研究会の発足
(現:ライフサポート研究会)

平成13年11月、大牟田市介護サービス事業者協議会の専門部会として認知症ケア研究会が発足。

その出発点は、いつでも、どこにいても、誰といっても自分らしく、**幸福**に暮して欲しいという願いだった。だから、自分の施設だけ良くてだめ！

【基本理念】

認知症の人が、ひとりの個人として尊重され、その人らしく地域で暮らせるよう、

1. ノーマリゼーションの視点
2. 人権の尊重、個人の尊厳
3. 人生の継続性、QOLの向上

をキーワードに、地域で支える仕組みづくり、サービスの向上を図っていく

- ・ 構成メンバー：市内の介護事業所に勤務する職員（専門職）9名の運営委員からスタート
(令和3年4月現在：運営委員37名、会員63名)
- ・ 事務局：大牟田市 保健福祉部 福祉課総合相談担当

地域認知症ケアコミュニティ推進事業へ

5

認知症介護に関わる実態調査（平成14年度）

- このような取り組みを進めてきたのは、平成14年度に市内全世帯と高齢者・家族・職員を対象とした大規模な認知症介護に関わる意識実態調査を行ったことがベースになっています。
- 調査そのものが市民への啓発であると確信していましたが、市民から寄せられた2,200ほどの認知症に対する不安や苦悩、地域全体で支えるための意見や提案が届いたのには驚きました。
- すべての声を考察してみると「認知症対策や地域づくりへの提言」が浮き彫りになり、その後の大牟田市における認知症対策はその提言の一つひとつに対応してきたものです。
- このうち「行政と地域の連携、推進者の育成、介護現場の質の向上、いつでも相談できるサポートセンターの設置」についてはその重要性を感じながらも、しばらくはそのことを共有できる関係機関との関係づくりに時間をかけていきました。

Q地域で認知症の人を支える意識やしくみが必要ですか？



地域づくりの提言、キーワード → 活動の基盤

- ☆ 向こう三軒両隣、隣組、小学校区単位の身近なネットワークの構築
- ☆ 公民館、民生委員の機能の復活と地域資源の活用
- ☆ 認知症を隠さず、恥じず、見守り、支える地域全体の意識向上
- ☆ 行政と地域の連携、推進者の育成・配置、介護現場の質の向上、いつでも相談できるサポートセンターの設置
- ☆ 子供のときから学ぶ、触れる機会をつくる
- ☆ 家族への支援、家族介護の負担の軽減

6

令和3年度構成事業

(1) 認知症コーディネーター養成研修等事業	
(2) ほっとあんしんネットワーク模擬訓練の開催	
(3) 認知症地域支援啓発交流事業の実施	
(4) 認知症サポートチームの運営	
(5) 認知症に関する相談対応	
(6) 若年性認知症の当事者支援	
(7) 認知症介護家族の支援	
(8) 認知症カフェの支援	
(9) 脳の健康チェック・もの忘れ相談会の実施	
(10) 専門職等による協議・多職種との連携	
(11) 認知症地域支援推進員の設置	

7

認知症支援を基盤にしたまちづくりの人材育成

ケア現場や地域で、認知症の人の尊厳を支え、
本人や家族を中心に地域づくりを推進していく人材

「認知症コーディネーター」養成研修

平成15年度～



- 地域をフィールドとして認知症ケアのアドバイスやケアの質の向上のための取り組みとケアマネジメントができる人材の育成
- 受講生（12人×2期生）は毎月2日間、履修項目に従った研修に取り組んでおり、その内容は講義形式よりもディスカッションやグループワークに中心をおく。
- 受講期間：2年間
- 受講費用：年間10万円

（令和3年9月）
現在

第1期生（平成16年度修了）～第17期生（令和2年度修了）

修了生164名

第18期生（11名）受講中

8

子どもたちと学ぶ認知症「絵本教室」

いつだって心は活きている～大切なものを見つけよう



認知症の「人」の
理解が深まることを願って
子どもたちと語り合う
大人や地域のために

どんな絵本？

～第1章～

ものがたり
(全3話)

～第2章～

解説

～第3章～

絵本のねらい
活用方法

どんな物語？

～第1話～

こわい夢

認知症になっても家族を
想う気持ち

～第2話～

くしゃくしゃ笑顔と
や・さ・し顔

「ええとこ探し」

～第3話～

ほくのおじいさん
は冒険家

「徘徊」を「冒険」と捉える
ユニークな視点

平成14年度意識実態調査でのまちづくりの提言

「子供のときから学ぶ、触れる機会をつくる」

認知症になったおじいさん・おばあさんを
温かく見守るボク(主人公)や家族、地域が描かれています

9

絵本教室では、認知症の人の気持ちや
自分たちにできることを話し合います

認知症って？

認知症の人の気持ちって？

一番困っている人は誰？

僕たちにできることはある？

平成16年度から始まった
小中学校の絵本教室は
今年で18年目
これまでに約1万人の子どもたちが
絵本を通して
認知症の人への思いやりの心を
育ててくれました

10

絵本教室の様子



認知症の当事者も
参加!!

グループワークをし
てから、発表します



11

- 認知症になるのはかわいそう…でも、もしおばあちゃんになっても、おばあちゃんのやさしい心は変わらない、だから私がやさしくしてあげる
- 家族も忘れてしまうなんて悲しい、思い出を忘れてしまうなんて悲しい…だからぼくが新しい思い出をつくってあげるんだ
- 認知症の人と同じ人間なのに差別を受けるなんておかしい…僕たちと同じように認知症になってもやりたいことをやってほしい
- 認知症は不便だけど、不幸ではない
- 僕たちにできることを、できることからしていきたい…あきらめずに一緒に闘う
- 心も体もそばにいてあげたい

3年（2016年）3月5日（土曜日）

有 明

有明新報【平成24年8月24日付】



認知症の女性を助けた児童たち

倉永小児童がお手柄
認知症の女性を自宅へ

大牟田

大牟田市豊小小学校（永尾一幸校長）の5年生女子7人が2日、下校中に道に迷った認知症の高齢女性に声を掛け、自宅へ送り届け、3日には女性の方が同校を訪問し「1助けがなかったら、命を落すすけど大変なことになったかもしれない。ありがとうごさいます」と感謝。児童は「命を救って良かった」と胸をなでおろしていた。

円ゆづなさん、武宮未侑さん、安部初野さん、松永祐唯さん、岩村露米さんがつて近所の男性に知らせ、女性（氏名に無事）に自宅まで連れて帰ることができた。女性は買い物へ行った帰りに道が分からなくなっていた。

同校5年生は福祉教育の一環で、校社共済福祉協議会や校区内の民生委員児童委員と連携し、高齢者、ひとり暮らしの高齢者、認知症の高齢者が多いこの地域を学んでいる。

児童たちは「声を掛けてなかったら事故に遭われたかもしれないので、助け

同校そばで国道208号の車道の端を歩いていた女性を発見。「危ないですよ」と言葉を掛けると、女性は「ありがとう」と歩道に上がったが、様子を見た志気遙奈さんと園田志帆さんも加わ

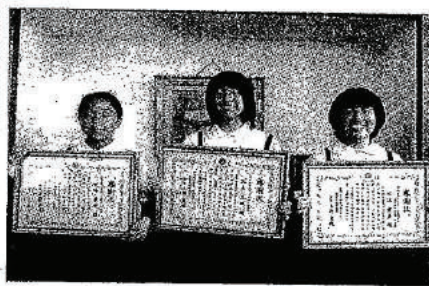
永尾校長は「みんな普救から素直で、あいさつもよくしています。学習とともにそんなところも声掛けにつながったと思います」と話していた。

（高本明）

こちら
110番
が
せん
▼
町の
台が
す
盗難
に
こ

声掛け、熱中症予防
— 炎天下に高齢女性保護

中学生3人
へ感謝状



感謝状を受け取った生徒3人

(13) 月日午後 温は三度、三八分
時半ごろ、湯に掛 中症を心配し、自體
ける途中、横断道を 索機でベットの
渡り女性に気づいた。茶を女性に飲んでも
中鳴き三度、徘徊 (はいか) 横断道 ても自分に分からな
に参加したことがあ り、女性の嫌がりに った。そこで同病室
なつた。「大丈夫です 際には認知症「ナイ
か」と言掛けた。母親(父)に指を色
「いいですよ、すか。 ネイタの中鳴きその
延床公團まで行けば いた。「警察に行へ」
まがかりです」と女 といひ、警戒心を
性は逃ぎ、三人で同公 たら「警察に走らせな
園に同行することじ なさい」というアドバ
なといふ。 イスに従ひ、女性を安
福園で又気象台によ 心させた。女性は初

江頭裕一

1680

地域認知症ケアコミュニティ推進事業

ほっとあんしんネットワーク模擬訓練

14

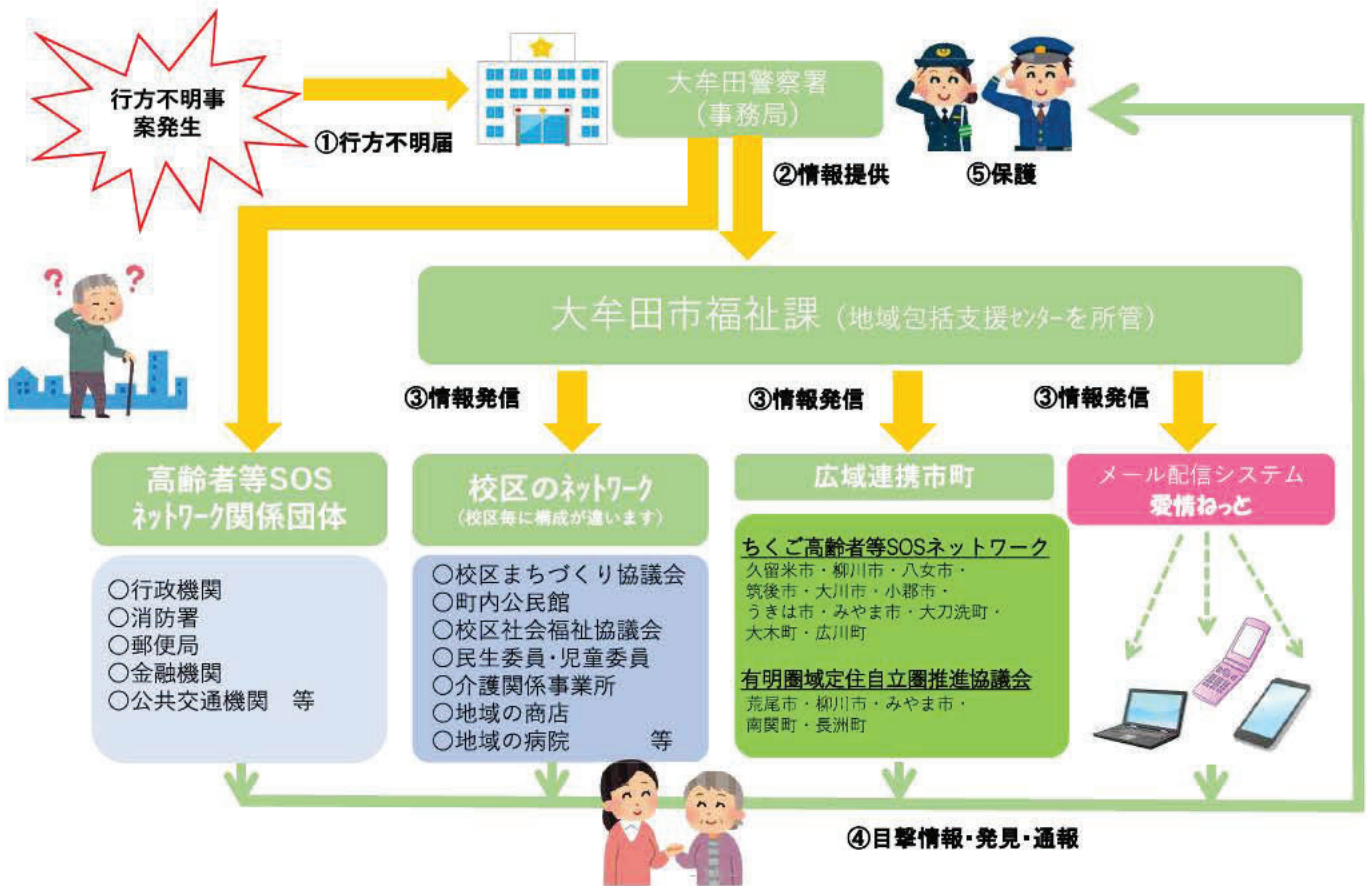
・ほっとあんしんネットワーク模擬訓練



9月21日世界アルツハイマーデー

15

大牟田市ほっとあんしんネットワーク

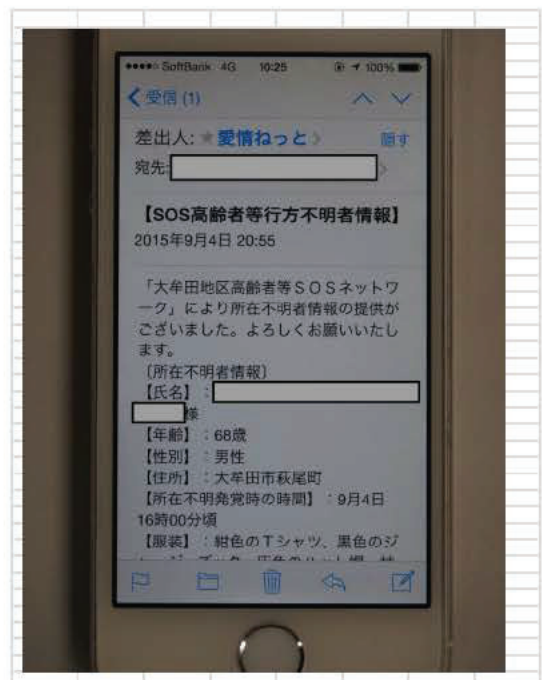


16

大牟田市ほっと・安心ネットワーク									
大牟田地区高齢者等SOSネットワーク 情報提供シート									
27年 9月 4日 20時 50分 (発信)									
【所在不明者情報】									
氏名:		大牟田 一郎		年齢:	68 歳	性別:	男		
住所:		大牟田市萩尾町 (町丁名まで)							
所在不明発見時間:		27 年	9 月	4 日	16 時	0 分			
警察署へ届出時間:		27 年	9 月	4 日	19 時	15 分			
服装	上	紺	色	Tシャツ					
	下	黒色	色	ジャージ					
	履物	白	色	スニーカー (紺色の線入り)					
	持ち物	灰色の帽子 杖							
	その他	眼鏡をかけている							
身体的特徴	身長	160	cm位	体重	48	kg位			
	体 色	やや黒							
	髪 型	白髪染じりの短髪							
	足元の状態	しっかりしている							
	その他								
認知症の有無:		有 (軽度)	名前が	言える	連絡先が	言えない			
行方不明歴の有無:		無	以前保護された場所						
不明者の様子									
特に変わった様子はない。									
その他 (本人がよく通っていた場所や実家等)									
〇〇クリニック (白川12-34)									
発見した際の連絡先									
大牟田警察署 43-0110 (大牟田市不知火町3丁目8番地)									

※発見されました。この情報提供シートは、適宜、速やかに破棄するなど適切に処理して下さい。

愛情ねっと (携帯メールの受信画面)



17